

## 令和5年度山梨大学教育学部附属中学校外部評価書

令和6年3月1日(月)

令和5年度学校関係者評価委員会 作成

### I 目標の達成状況に対する意見

今年度は行事の精選, 縮小を行いながらもコロナ禍以前の教育活動が実践されており, 多くの場面で保護者も生徒の活動を参観することができた。そのなかで, これまで取り組んできたICT等の活用がより効果的に進められていることを認識することができた。

### II 取り組みの状況に対する意見

・キャリア教育に関する項目の数値が, 学校側による自己評価と保護者アンケートにおいて低下している。キャリアパスポートを形式的に取り組むものとせず, 「なぜ働くことについて学ぶのか」を生徒に伝えるのはもちろんのこと, 講演会や職場体験等で働くことの意義を直接学ぶことができる機会を設けたり, 保護者と連携し, 家庭内でも将来のことについて考える場面を設けたりすることができるよう促してほしい。

・学校側の自己評価において, 防災・防犯に関する数値が低下している。これは昨今の自然災害多発が影響しているかもしれないが, より実効性のある訓練を行うことによっていざというときの行動力が高まる。本校の学区は広範囲にわたっているため, 通学時や下校時においても安全管理について意識することができるような取り組みをしてほしい。

・保護者アンケートの数値が全項目上昇しているが, 「⑤ 分からない」と回答した保護者の割合が10%を超える項目が過半数ある。保護者は生徒の取り組みを知ることで生徒の学校生活における活動を理解することができるので, 学級通信やホームページを活用して, 学校生活の様子を伝え, より多くの保護者がホームページを閲覧できるように保護者メール等を用いて周知するなどの工夫に努めてほしい。

### III 改善方法に対する意見

・保護者アンケートの数値と学校側の自己評価の数値を項目ごとに比較分析し, 改善策に基づいた実践を続けてほしい。

### IV その他

・附属四校園や中学校で進めている研究の「非認知能力」は, 現在の教育において重要とされている能力でもあるので, 結果は直ちに表れないかもしれないが, 種をまくことが大切なので, これからも持続的な取り組みを行ってほしい。

・保護者アンケートの回答率が80%台前半になっている。保護者の意見は次年度の活動における根幹にも関わってくるので, 回答率を上げるための取り組みを行ってほしい。

記載責任者(附属中学校 学校関係者評価委員会) 氏名 堀内 かおり

